

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p><b>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</b></p> <p>&lt;概評&gt;</p> <p>・進路支援の方針にある「体系的なキャリア教育を実施」の観点から、全学共通科目と各学部設置のキャリア教育科目との体系化が期待される。</p>
<p><b>2016年度外部評価委員会指摘事項</b></p> <p><b>【特筆すべき事項】</b></p> <p>・「基礎教育科目」として多くの外国語科目が提供されていることは、グローバル化時代や異文化理解などの視点からも、高く評価できる。国際関係学部と埼玉県立坂戸高等学校との連携が定着し、育ちつつあるようであり、注目に値する。</p>
<p><b>前年度からの課題</b>（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>キャリア教育体系的授業化施策の効果を検証する仕組みについて検討する。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
評価の視点	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<p>国際関係学部は、2006年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に申請する際、20年間の実績を総括して、学部教育を、「アジア言語教育」「地域研究カリキュラム」「現地体験型学習」「学生による企画・参加・実行型の活動」の4つの柱からなる『アジア理解教育の総合的取組』として定式化した。</p> <p>学部創設30年目を迎える2015年より、『アジア理解教育の総合的取組』をより充実させるために、カリキュラム改正を行った(B4-2-17)。改正の趣旨は以下の4点に集約できる。すなわち、①アジアへの関心、意欲、学力、学び方の「多層化」に柔軟に対応できる「幅のあるカリキュラム」を編成すること。②学位授与方針に基づき、4年間を通じた体系的なキャリア教育を推進すること。③主体的な学び(アクティブ・ラーニング)を導入すること。④全学共通科目への過度の依存傾向を是正するために、地域研究科目など学部のコア科目を充実させること(B4-2-3)。</p> <p>これは国際関係学科、国際文化学科に共通のものであるため、学部としての取り組みを述べる(A4-2-9)。</p> <p>4つの柱のうち特に教育課程の編成にかかわるのは「アジア言語教育」と「地域研究カリキュラム」である。これがアジアに軸足を置いた本学部の教育の中核をなしている(A4-2-9 p.18～p.39)。</p> <p>&lt;アジア言語教育&gt;</p> <p>アジア理解の大きな柱として、中国語からアラビア語までのアジア9言語と英語の10言語から1言語を、1年次の選択必修としている(15年度より Semester制を導入)。アジア言語を習得することにより、直接的なコミュニケーションの道具を手に入れ、地域研究の基盤をつくるのがねらいである。2年次には、意欲的な学生がアジア言語の強化を図り、アジア理解を深めるために、アジア各国の提携大学での現地研修が選択科目として組まれている。</p> <p>&lt;地域研究カリキュラム&gt;</p> <p>言語学習の基盤の上に、1年次から、アジア地域研究を行うために、東アジア(中国、韓国)、東南アジア(インドネシア、</p>
-------	---

	<p>タイ、ベトナム)、南アジア (インド、パキスタン)、西アジア (イラン、アラブ諸国) に分け、国際関係学科は政治・経済・社会、国際文化学科は文化・歴史・芸術を中心とした科目群が配置されている。また、専門教育科目として、アジアを学ぶための自由科目の国際関係各論、比較文化各論が1年次から開講されている。</p> <p>&lt;基礎教育科目&gt;</p> <p>1年次の基礎教育科目として、チュートリアル (入門ゼミ)、総合英語、アジア理解のための基盤的な科目として「アジア概論」が必修化されている。このほか、教養科目として、東松山キャンパスで開講される全学共通科目のうち 12 単位を必修化している。</p> <p>&lt;演習科目&gt;</p> <p>1年次には入門ゼミのチュートリアル、3年次には必修科目として専門演習が配置され、4年次ではアジア地域研究の集大成として、卒業論文を執筆するための演習が必修化されている。</p> <p>以上のように、国際関係学部では、教育課程の編成・実施方針に基づき、体系的性と順次性に配慮したカリキュラム編成が行われている(A4-2-1 第23条の16～18)。</p> <p>2015年カリキュラムで導入した「キャリア教育」を中心に、着実に成果が上がっている。</p>
4-2-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 必要な授業科目の開設状況について【×】</p> <p>具体的事例：</p> <p>(2) 順次性のある授業科目の体系的配置について【×】</p> <p>具体的事例：</p> <p>(3) 専門教育・教養教育の位置づけについて【×】</p> <p>具体的事例：</p>
4-2-2	<p>本学部の最大の特色はアジアを中心とした地域研究であり、基礎教育科目・専門教育科目ともアジア関連科目を数多く配置し、アジア研究で豊富な実績をもつ教員が担当している (A4-2-9 p.18～p.39、A4-2-16、A4-2-21)。地域研究科目は、アジア4地域 (東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア) のそれぞれについて、「東アジアの政治と国際関係」「グローバル化の中の東南アジア経済」「現代南アジア経済論」「中東・地中海世界の風土と経済」など社会科学系の科目、「東アジア史」「東南アジアの芸能」「南アジアの宗教と生活文化」「西アジアのこぼれ文化」など人文科学系の科目が、合わせて 56 講座開かれている。</p> <p>また、2015年度からのカリキュラム改正により、「オセアニア社会論」「トルコ社会論」「アフリカ文化論」「中央アジアの社会」「シルクロード文化論」など、アジア4地域の周辺・関連地域の科目が補充されるとともに、言語文化講座の選択言語にかかわらず、アジア全域の地域研究科目に興味や関心に応じて学ぶことができるようになった。さらに、地域に限定されない科目として、「アジア人口論」「難民研究」「私たちの『食』とアジア」「アジア文学論」「アジア法」「比較芸術学」などが国際関係各論、比較文化各論として設定されている。</p> <p>選択必修の言語科目 (言語文化講座) は、中国語・韓国語・インドネシア語・タイ語・ベトナム語・ヒンディー語・ウルドゥー語・ペルシア語・アラビア語・英語の 10 言語。他の言語科目としては、必修科目の総合英語、選択科目の英語講座 1～10 (「スピーチとディベート」「英語で学ぶ比較文化」「English for Business」「Asian Peace and Security」等)、アジア言語講座として、中国語 (言語文化講座で中国語以外の言語を選択した学生が履修できる)・タミル語・ビルマ語・モンゴル語・ベンガル語などが開講されている。</p> <p>初年次教育については、20名以下の少人数クラスで実施される、学部独自に開発したテキスト『チュートリアル』を用いた導入教育 (入門ゼミ) が定着している。この授業のねらいは、アジアを素材に、資料の読み方、資料検索法、レポート作成法、プレゼンテーションの技法など、大学で求められる学問の作法を1年次から身につけることである。また、推薦入試による入学者には「入学前教育」を実施しているが、課題については、大学入学後の教育に速やかに適応できるような学習内容を教務委員会および英語教育委員会が検討している。</p> <p>(高大連携の記述を削除)</p> <p>前述のカリキュラム改正により「キャリア講座」が新設された。初年次チュートリアルの後期には、共通のテキスト (ベネッセ編『My Career Note I (Advance)』) を活用したキャリア教育が実施される。キャリア・デザインのための「キャリア形成論 I・II」、スキルの向上をめざす「TOEIC 対策講座 I・II」「情報 I・II」「世界遺産講座」「問題解決学入門」、現場を知りたいことを目的とした「企業と雇用」「NGO 活動論」「旅行産業論 (PBL)」「地域文化の探求 (PBL)」、アジアで修行する「インターンシップ・イン・アジア I・II」など、多彩な科目が開講されている。</p> <p>新カリキュラムでは、「主体的な学び (アクティブ・ラーニング)」のための講座が導入された。大教室で行う必修科目が大幅に削減され、学生は、必修の専門演習 (ゼミ) の他に、複数の少人数制の演習型授業 (テーマ研究) への参加が可能になる。大人気の科目「アジアの身体とパフォーマンス」は半期から通年開講に。企業や自治体との連携による課題解決型の授業 (PBL・TBL) を導入し、問題解決力や「社会人基礎力」を鍛えるとともに、「学生による企画・参加・実行型の活動」を奨励するため</p>

	<p>に、学部行事の運営や学内外の課外活動（ボランティアなど）を DACIX（Daito Asian Communication Index）制度により単位認定している(B4-2-11)。4 時間相当の課外活動に対し 1 ポイントを付与し、20 ポイントごとに 2 単位を認定できるようになっている。</p> <p>国際化に対応した教育としては、学部設置時から実施してきた現地研修がある（B4-2-23 d2-表 15）。これは専門教育科目のなかの主専攻地域（東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア）で、2 年次に 3～4 週間の短期研修を行うもので、専任教員が引率する。上海師範大学（中国）、高麗大学校（韓国）、ベトナム国家大学ハノイ（ベトナム）、パジャジャラン大学（インドネシア）、ジャワハルラル・ネルー大学（インド）など、アジア 9 カ国の協定校での語学研修とともに、現地の政治・経済・文化・社会などを学び、体験することがねらいである。現地研修は、選択科目であるが、本学部の理念をよく体現したプログラムで、研修制度を導入した 1988 年から 2016 年度まで、延べ 4,730 人が参加している。その他、英語圏への留学にそなえた科目「海外留学準備講座」などが開講されている。</p> <p>以上、教育課程の編成・実施方針に基づき、国際関係学部に対応しい教育を提供していると考えられる。2016 年度においても、設定した目標に沿って着実に成果が上がっている。</p>
4-2-2	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>(1) 学士課程教育に相応しい教育内容の提供について【○】      具体的事例：学部教育の 4 本柱（アジア言語教育・地域研究・現地体験型学習・学生による企画・実行・参加型の学び）に立ち返り、教育内容を点検している。</p> <p>(2) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容について【×】      具体的事例：坂戸高校との高大連携事業は、高校側の担当者の人事異動など諸般の事情により、2016 年度は行われていない。</p> <p>(3) キャリア教育の実施状況について【○】      具体的事例：2016 年度には埼玉県「大学生のための県内企業魅力発見事業」に選定され、キャリア特殊講義として 1 年次用に「問題解決学入門」（受講者 40 名）を、2 年次用には「企業の研究」「問題解決学 I」（それぞれ受講者 30 名）の合計 3 講座を、埼玉県中小企業家同友会の支援のもとに開講した（追加資料①）。また、主として 3 年次生を対象とする「企業と雇用 A・B」の授業内容及び方法を刷新した（追加資料②）。</p>
4-2-3	<p>4-2-3 の記載にもある通り、現地研修（語学研修）に加え、その応用編となる「インターンシップ・イン・アジア I・II」、留学など、国際化に対応する多彩な科目が開講されている。現地研修では東アジア地域（中国・韓国）の履修者が微減し、「インターンシップ・イン・アジア I」の受講者数も横ばいである。「インターンシップ・イン・アジア II」（応用編）については、「履修者 10 名未満」原則を適用し、2018 年度から休講することになっている。</p>
4-2-3	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>(1) 教育課程における国際化の推進について【×】      具体的事例：</p> <p>(2) 学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進について【○】      具体的事例：現地研修の引率体制を見直し、南アジア、西アジア以外の現地研修の引率を原則的に廃止した。</p>
4-2-4	<p>教育内容については、2006 年度「特色 G P」の選定理由で「体系的でよく練られたアジア重視型プログラムである」と評価されているが、その後も、学生の状況や「社会人基礎力」（ジェネリックスキル）の育成などの社会の要請に対応すべく、教務委員会、国際交流委員会など学部内各種委員会で継続的に検証を行い、改善に努めている（B4-2-18、B4-2-23 d2-表 19）。</p>
4-2-4	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>教育課程の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】      具体的事例：2019 年度のカリキュラム改訂に向けて、教育内容の検証を進めた（追加資料③）</p>

## 【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	2016 年度卒業生の就職決定率が向上した（追加資料④）。その要因としては以下のことが考えられる。東松山キャリア支援課の積極的な支援により、3 年次専門演習（必修）の授業を利用して、ゼミごとに東松山キャリアセンターの指導をうける体制が整備された。キャリアセンターと学生の密接なかかわりは言うまでもなく、キャリア支援に関するゼミ担当教員とキャリアセンター職員との連携体制も整備されつつある。
4-2-3	

4-2-4	
-------	--

## 【改善すべき事項】

4-2-1	全学共通科目への依存傾向を是正する。
4-2-2	キャリア教育体系的授業化施策の効果を検証する仕組みについて検討する。
4-2-3	治安情勢などの影響もあり、近年、現地研修参加者が通減傾向にあるので、現地研修をより魅力あるものにするための改革を進める。
4-2-4	「出口」の見えやすい教育課程に向けた検討を進める。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-2 学生の関心・意欲・学び方の多様化に柔軟に対応できる幅のあるカリキュラム編成	カリキュラム改訂が教授会で承認されている。			A	A	
	4-2-2 「学生による企画・参加・実行型の活動」の奨励・推進	DACIX 申請件数 年平均 100 件	→		A	B	
	4-2-1 専門教育と教養教育の位置づけを明確にする（全学共通科目への依存傾向の是正）	カリキュラム改訂により専門科目履修単位基準の引き上げ 全学共通科目履修平均 40%以下			B	A	
	4-2-2 キャリア教育の推進	「企業と雇用 A・B」の履修者数 平均 100 名以上	→		B	B	
	4-2-2 キャリア教育の体系的授業化	1 年次「キャリア講演会」の実施（2 回）			A	S	
		「キャリア講座」の新設 開講するキャリア関連科目数が半期 10 科目以上			A	B	
	4-2-3 魅力ある現地研修プログラムの推進	言語研修および海外インターンシップの導入			A	B	
4-2-2 学生の関心の高い現代的課題の授業化をはかる	NGO 講座の正規授業化	→		A	A		
16 年度 目標	4-2-2 学生の関心・意欲・学び方の多様化に柔軟に対応できる幅のあるカリキュラム編成	2015 カリキュラムの検証	→		B		
	4-2-2 「学生による企画・参加・実行型の活動」の奨励・推進	DACIX 制度の整備（内規）			A		
	4-2-1 専門教育と教養教育の位置づけを明確にする（全学共通科目への依存傾向の是正）	カリキュラム改訂の準備 2019 年度カリキュラム改訂（第 7 次改訂）に向けての準備			B		
	4-2-2 キャリア教育の推進	「企業と雇用 A・B」の履修者数 100 名以上			B		
	4-2-2 キャリア教育の体系的授業化	1 年次「キャリア講演会」の実施（2 回）	→		A		
		1 年次「キャリア教育」の試行			A		
		「キャリア講座」の準備	→		A		
4-2-3 魅力ある現地研修プログラムの推進	言語研修及び海外インターンシップの内容の策定			A			

	4-2-2 学生の関心の高い現代的課題の授業化をはかる	旅行観光に関連する授業科目数が半期 2 科目以上				A		
		世界遺産検定 (3 級) 認定者数 : 50 名以上				A		
17 年度 目標	4-2-1 専門教育と教養教育の位置づけを明確にする (全学共通科目への依存傾向の是正)	カリキュラム改訂により専門科目履修単位基準の引き上げ 全学共通科目履修平均 40%以下				A		
	4-2-2 学生の関心・意欲・学び方の多様化に柔軟に対応できる幅のあるカリキュラム編成	「出口」の見えるカリキュラムが策定され、カリキュラムマップ (カリキュラムツリー) や履修モデルが作成されている。				A		
	4-2-2 キャリア教育の推進	全学プロジェクト事業「初年次教育としての企業連携型 PBL 授業の展開」					A	
		「企業と雇用 A・B」の履修者数 100 名以上					B	
	4-2-3 魅力ある現地研修プログラムの推進	言語研修参加率 : 言語文化講座 (7~12) 履修者の 50%以上				A		
	4-2-4 学修成果の検証	キャリア教育体系的授業化施策の効果を検証する仕組みについて、教務委員会で検討されている。				C		

## IV 評価専門委員会所見

4-2-1【現状】 4つの柱から成る教育課程の具体的な内容や教育目標が大変具体的に記述されており、また 2015 年度施行の新カリキュラムの主旨も明確に示されています。

4-2-2【現状】 国際関係学部の教育内容面の特色が、具体的な科目名と授業内容と共に、明快に打ち出されています。特に、東・東南・南アジア研究をコアとして、2015 年度以降はさらにオセアニアやトルコ、アフリカ、中央アジアなど、その周辺地域に関する科目が設置され、アジアを全般的に見渡せる教育課程になっており、学生にとって大変魅力的な教育課程となっている点が多いに評価できます。キャリア教育に関し、適切な科目や講座の設置、共通テキストの使用など、具体的方策が取られています。

## V 所見への対応

評価いただいた点を、2019 年度カリキュラム改訂においてさらに発展させていきたい。

## VI 次年度への課題

キャリア教育の学修成果を測定する仕組みについて、内部質保証委員会で検討する。

## 本項目の根拠資料 (データ類、裏付けとなる資料)

A4-2-1 大東文化大学学則 <既出>A1-1  
A4-2-3 大学案内「CROSSING2017」 <既出>A1-6  
A4-2-4 2017 年度諸資格課程履修の手引き <既出>A4-1-6  
A4-2-9 国際関係学部 ガイドブック 平成 29 (2017) 年度入学生用 <既出>A1-12  
A4-2-16 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)  
大東文化大学ホームページ (Web シラバス)  
<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html>  
A4-2-21 国際関係学部 2017 年度時間割表  
B4-2-1 大学ホームページ (全学教育全学共通科目)  
[http://www.daito.ac.jp/education/whole\\_university/common.html](http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html)  
B4-2-3 国際関係学部からのお知らせ「2014.11.15 国際関係学部のカリキュラムが生まれ変わります」  
[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/news/details\\_9867.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_9867.html)  
B4-2-10 大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動)  
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <既出>B1-16

B4-2-11 国際関係学部からのお知らせ「2014.6.26DACIX がスタートしました」

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/news/details\\_9308.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_9308.html)

B4-2-17 国際関係学部 ガイドブック 平成 26 (2014) 年度入学生用

B4-2-18 国際関係学部 教授会 (2014 年 2 月 13 日) 資料 他

B4-2-19 2016 年度学年暦

B4-2-23 大学データ集 <既出>B1-22

〔追加資料〕

1 DACIX 申請及び単位認定一覧 (2016)

①「大学生のための県内企業魅力発見事業」事業成果報告書

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/information/files/consignment\\_business2016.pdf](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/information/files/consignment_business2016.pdf)

②企業と雇用 A・B

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_20517.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_20517.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_20653.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_20653.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_20742.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_20742.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_20751.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_20751.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_20995.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_20995.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_21635.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_21635.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/asia/gp/career/details\\_22025.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/career/details_22025.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/news/details\\_22128.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_22128.html)

③

2016 年度第 8 回国際関係学部教授会議事録

2016 年度第 12 回国際関係学部教授会議事録

2017 年度第 1 回国際関係学部教授会議事録

④

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/news/details\\_22519.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_22519.html)

[http://www.daito.ac.jp/education/international\\_relations/news/details\\_22520.html](http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_22520.html)